

6-10		主題	フロア床・洗面台修繕への取り組みと利用者の居場所作りについて	
安全・安心		副題	ご利用者に安全で安心した環境・生活を送って頂くための取り組みについて	
研究期間	12ヶ月	事業所	府中市立特別養護老人ホームあさひ苑	
発表者：米川 香奈（よねかわ かな）			アドバイザー：比嘉 登美枝（ひが とみえ）	
共同研究者：阿曾 快央（あそ よしお）				
電話	042-369-0080	メール	asahi@tama-dhk.or.jp	
FAX	042-365-4683	URL		

今回発表の事業所やサービスの紹介	平成5年開設、3階建ての施設で2、3階部分がホームのエリアとなっています。緑に囲まれた静かな環境の中、府中市・調布市・三鷹市の65歳以上の要介護1～5の方で、ご自宅で介護を受けることが困難な方に入居いただき、介護や日常生活に必要な支援を提供しています。ご利用者が安心して過ごせるため介護のみならず生活全般に支援を必要とする方々にサービス提供しています。
------------------	--

《研究前の状況と課題》 ○状況 入所者の高齢虚弱化や認知症が重度の方など多様化するご利用者の住み分けの取り組みを進めてきたが、開設当初から変わらないタイルカーペットや食堂の壁紙が汚れ、必ずしも衛生的な状況とは言えなかった。また、床材のタイルカーペットの下はコンクリートでクッション性がないため、転倒時怪我をするリスクも高かった。 日中の居場所の検討をしていく中で、安全に安心して快適に過ごしていただく為に床材の変更や居場所の見直しが必要となってきた。 ○課題 ・安全に衛生的に過ごす為の床材・壁紙の修繕 ・快適な生活を送る為の日中の居場所の見直し ・入所者が過ごす中で安全な修繕工事の実施	《研究の目標と期待する成果》 ○目標 ホーム入所者が生活する中で壁紙・床の張替え計画を踏まえ、安全・安心で機能的な環境整備と居場所作りを行なえるよう、修繕計画に取組む。 ○成果 ・大きな事故なく修繕工事を完了した。 ・共用スペース・居室・廊下の床の色分けをしたことで全体も明るく居場所の区分けが分かりやすくなった。 ・クッション性のある床材に変更した事で転倒時のダメージ縮小へと繋がった。 ・安全で快適な生活を送る為のハード部分が整備された事で、居場所の工夫を進める具体案を考えることが出来た。
---	--

《具体的な取り組みの内容》

1.修繕計画を見据えての情報収集～検討

平成22年度当初より修繕工事に備えた床や壁の材質の資料収集を行う。環境研究会を中心に修繕箇所のホーム案の検討を行う。

平成22年10月 府中市と修繕内容時期・予定工事内容の確認を行い、他施設見学や収集した資料を基に具体的な計画を検討。平成22年11月床材サンプルを展示し各職員の意見聴取を行い具体的な案を提示。

2.修繕工事開始

平成22年12月13日、共用部分より作業開始予定だったが、業者の資材調達不備により、実際は平成23年1月11日から開始された。フロア内が明るく見えるよう橙色系統の色を使用し共用部分(デイルーム、食堂)・廊下・居室と色分けし、居場所の明確化を図った。共用部分から工事を開始し、仮の居室を設け順次利用者の移動・居室の工事を行った。居室移動に関しては、移動しても安心して過ごせるように環境を整え、特にこだわりがある利用者は個室から個室への一時移動を行うなどの配慮をした。

3.工事完了

約3ヶ月の工事期間大きな事故なく無事終了。利用者・家族からも明るくなったと好評の声が聞かれている。

《取り組みの結果と評価》

環境研究会中心に、年度始めから修繕に向けて居室整理やフロア整備に取り組んでいたのと、事前に職員内で情報を周知徹底出来ていたこと、利用者・代理人に細やかなインフォメーションを行ったことで、大きな事故や混乱もなく修繕工事が終了した。床は以前の灰色から橙色へと変更したことにより、ご利用者や面会者からフロア全体が明るくなったとの言葉を頂くことが多かった。また、同時期に行った洗面台の改修により、車椅子のまま使用しやすくなったため、3階は自分で歯磨き・うがいを行なえる利用者が増えた。

《まとめ》

床の色を分けた事によって、居場所の明確化ができた。今後、居心地の良い環境への整備も行ないやすくなると考える。また明るくなった分、埃やゴミが見えやすくなり、環境美化への意識が高まった。こまめに掃除を行なうため、現状に合わせた掃除用具も整いつつある。整った環境を最大限に活用し、より快適に過ごす為の空間作りを心がけることで、更に安全に安心して過ごせるフロア環境になっていくと考える。

《提案と発信》

【メモ欄】